

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者
I 審議事項				
2. 委員会関係				
提案1	(機能別委員会) 科学者委員会 (1)運営要綱の一部 改正(分科会の設 置1件) (2)小分科会委員の 決定(新規1件)	(1)科学 者委員会 委員長 (2)会長	B(5-7) 分科会の設置に伴い、運営要綱を一部 改正するとともに、小分科会の委 員を決定する必要があるため。	三成副会 長
提案2	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部 改正(新規設置3 件、委員構成の変 更1件、設置期間の 変更1件、親委員会 の追加1件) (2)委員会及び分科 会委員の決定 (【委員会及び分 科会】新規1件、追 加11件【小委員 会】新規3件、追加 1件)	(1)哲学委 員会委員 長、心理 学・教育学 委員会委員 長、地域研 究委員会委員 長、政治 学委員会委員 長、基礎 生物委員会 委員長、統 合生物学委 員会委員 長、基礎医 学委員会委員 長、健康・生 活科学委員会委員 長、環境 学委員会委員 長、物理 学委員会委員 長、地球 惑星科学委 員会委員長 (2)各部部 長	B(9-23) 分科会の設置等に伴い、運営要綱 を一部改正するとともに、分野別委 員会における委員等を決定する必要 があるため。	会長 各部部長
提案3	(課題別委員会) フューチャー・ アースの推進と連 携に関する委員会 (1)委員の決定(追 加1件)	(1)会長	B(25) フューチャー・アースの推進と連携 に関する委員会における委員を決定 する必要があるため。	会長

5. 国際関係

提案4	平成30年度フューチャー・アースに関する国際会議への派遣方針に基づく、派遣会議及び会議派遣者を決定すること	会長	B(27-28)	平成30年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣方針に基づき、派遣会議及び会議派遣者を決定する必要があるため。 ※国際委員会4月25日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会4月13日承認	会長
-----	---	----	----------	---	----

6. シンポジウム等

提案5	公開シンポジウム「認知症の診断・治療への心理学的貢献」	心理学・教育学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会 共催：日本心理学会 日時：平成30年10月7日（日） 13:00～17:00 場所：京都女子大学B校舎501教室 ※第一部承認	-
提案6	公開シンポジウム「認知症患者の支援に対する心理学的貢献」	心理学・教育学委員会委員長	B(31-32)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会 共催：日本心理学会 日時：平成30年12月9日（日） 13:00～17:00 場所：日本大学文理学部新本館センターホール ※第一部承認	-
提案7	公開シンポジウム「心理学で冤罪を防ぐ：司法的判断における認知バイアスの影響」	心理学・教育学委員会委員長	B(33-34)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会法と心理学分科会、同社会のための心理学分科会 共催：日本心理学会、法と心理学会 ①日時：平成30年10月13日（土） 13:30～17:00 場所：京都女子大学（予定） ②日時：平成30年11月10日（土） 13:30～17:00 場所：慶應義塾大学（予定） ※第一部承認	-
提案8	公開シンポジウム「『比較政治学』の教育：大学で何をいかに教えるか」の開催について	政治学委員会委員長	B(35-36)	主催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会、日本比較政治学会 日時：平成30年6月23日（土） 13:30～15:30 場所：東北大学川内南キャンパス ※第一部承認	-
提案9	公開シンポジウム「平成30年度日本歯学系学会協議会講演会『歯学・歯科医療の今後の方向性』」の開催について	歯学委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議歯学委員会 日時：平成30年6月27日（水） 14:30～16:00 場所：日本歯科大学生命歯学部100周年記念館地下1階 九段ホール ※第二部承認	-

提案10	公開シンポジウム「概日生理学の新しい地平」の開催について	基礎生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会、アフォフ・ホンマ記念財団 日時：平成30年7月14日（土） 14：30～16：35 場所：北海道大学学術交流会館 小講堂 ※第二部承認	-
提案11	公開シンポジウム「Food regulation and consumer needs in the world」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	B(41)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 IUNS分科会、日本栄養・食糧学会 日時：平成30年5月11日（金） 16：30～18：00 場所：岡山コンベンションセンター コンベンションホール ※第二部承認	-
提案12	分子科学研究所所長招聘会議「科学の近未来：化学とAI・大学の質保証（仮）」の開催について	化学委員会委員長	B(43-44)	主催：日本学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会戦略企画委員会 日時：平成30年5月30日（水） 13:00～17:30 場所：岡崎コンファレンスセンター ※第三部承認	-
提案13	公開シンポジウム「AIとIoTが拓く未来の暮らし：情報化社会の光と影」の開催について	第三部部长	B(45-46)	主催：日本学術会議第三部、東北地区会議、国立大学法人東北大学 日時：平成30年8月2日（木） 13:00～17:30 場所：東北大学青葉山キャンパスカ タールサイエンスホール ※第三部承認	-
提案14	日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会「南九州におけるウイルス感染症とその制御に向けた挑戦」の開催について	科学者委員会委員長	B(47-48)	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議、鹿児島大学 日時：平成30年9月10日（月） 14:00～16:15 場所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール	-
提案15	公開シンポジウム「第3回若手科学者サミット」	若手アカデミー代表	B(49-50)	主催：日本学術会議若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会 日時：平成30年6月4日（月） 13:30～18:00 場所：日本学術会議講堂	-

8. 後援

<p>国内会議の後援を すること</p> <p>会長</p> <p>—</p> <p>以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。</p> <p>① <u>こども環境学会2018年大会(埼玉)「こどもは未来」</u> 主催：公益社団法人こども環境学会 期間：平成30年5月18日(金)～20日(日) 場所：ウェスタ川越 申請者：公益社団法人こども環境学会 仙田満 ※第一部、第二部、第三部承認</p> <p>② <u>第55回日本伝熱シンポジウム</u> 主催：公益社団法人日本伝熱学会 期間：平成30年5月29日(火)～31日(木) 場所：札幌コンベンションセンター 申請者：公益社団法人日本伝熱学会 理事 大島伸行 ※第三部承認</p> <p>③ <u>第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)</u> 主催：茨城県、公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC) 期間：平成30年10月15日(月)～19日(金) 場所：つくば国際会議場 申請者：第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)実行委員会会長 大井川 和彦 ※第三部承認</p> <p>④ <u>第61回自動制御連合講演会</u> 主催：システム制御情報学会、計測自動制御学会、日本機械学会、化学工学会、精密工学会、電気学会、日本航空宇宙学会 期間：平成30年11月17日(土)～18日(日) 場所：南山大学 名古屋キャンパス 申請者：一般社団法人システム制御情報学会会長 玉置久 ※第三部承認</p>	<p>会長</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>会長</p>
---	-----------	----------	----------	-----------

提案16

II その他

	件名	資料
1.	<p>今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は5月31日(木)13時30分開催</p>	<p>参考1</p>
2.	<p>前回報告以降の研究計画・研究資金検討分科会の活動と 第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン策定方針についてのアンケート案</p>	<p>参考2</p>

○科学者委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。				第2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
	(略)				(略)		
<u>ゲノム編集技術に関する分科会</u>	<u>1. ゲノム編集技術を用いたヒト生殖細胞、胚を用いた研究のあり方</u> <u>2. ゲノム編集技術を用いた医療問題に適宜対応する体制のあり方</u> <u>3. ゲノム編集技術によりもたらされる、医療分野、農業分野に共通した諸問題に関する検討に関すること</u>	<u>各部の4名以内の会員及び委員会の6名以内の委員並びに会員又は連携会員若干名</u>	設置期間： <u>平成30年4月26日</u> <u>～平成32年9月30日</u>		<u>(新規設置)</u>		
(略)				(略)			

附則（平成30年4月26日日本学術会議第263回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

科学者委員会分科会の設置について

分科会等名：ゲノム編集技術に関する分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	科学者委員会
2	委員の構成	各部の4名以内の会員及び委員会の6名以内の委員並びに会員又は連携会員若干名
3	設置目的	<p>ゲノム編集技術は医療、農業分野へ応用が期待されている。一方、この技術は生命のあり方をも変えうるもので、生命倫理、食の安全、環境などに係る問題も指摘されている。</p> <p>日本学術会議では、第23期の課題別委員会「医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会」においてゲノム編集技術を医療に用いることの生命倫理上の問題点などを検討し、平成29年9月に提言「我が国の医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方」を発出した。また、農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会では、農業分野（作物、家畜など）への応用に係る問題の検討が進んでいる。</p> <p>それらを踏まえ、本分科会においては、ゲノム編集技術の喫緊の課題を検討する。特にヒト受精胚へのゲノム編集の懸念が急速に高まっている中で、医学・医療領域における課題を中心に検討し、適宜農業分野も含めたゲノム編集技術に共通する他の課題も検討対象とする。</p>
4	審議事項	<p>1. ゲノム編集技術を用いたヒト生殖細胞、胚を用いた研究のあり方</p> <p>2. ゲノム編集技術を用いた医療問題に適宜対応する体制のあり方</p> <p>3. ゲノム編集技術によりもたらされる、医療分野、農業分野に共通した諸問題に関する検討に関すること</p>
5	設置期間	平成30年4月26日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

【機能別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（科学者委員会男女共同参画分科会 Gender Summit 10 フォローアップ小分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
伊藤 公雄	京都産業大学現代社会学部客員教授（ダイバーシティ推進室長兼任）	第一部会員	※分科会
三成 美保	奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系）	第一部会員 副会長	※分科会
藤井 良一	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長	第三部会員	※分科会
渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構副理事	第三部会員 副会長	※分科会
井野瀬 久美 恵	甲南大学文学部教授	連携会員	※分科会
高橋 裕子	津田塾大学学長、学芸学部教授	第一部会員	第一部
伊東 昌子	長崎大学男女共同参画推進センター 教授・副学長	連携会員	第二部
松尾 由賀利	法政大学理工学部教授	第三部会員	第三部
森 初果	東京大学物性研究所教授	連携会員	副会長

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
哲学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	哲学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	哲学委員会のちと心 を考える分科会	1. 生命倫理や葬送儀礼 や看取りにおけるいのち の意義 2. 社会生活の多様な場 面での心のあり方 に係る審議に関すること	20名以内の 会員又は連 携会員	平成29年10 月4日～平 成32年9月 30日		哲学委員会のちと心 を考える分科会	1. 生命倫理や葬送儀礼 や看取りにおけるいのち の意義 2. 社会生活の多様な場 面での心のあり方 に係る審議に関すること	15名以内の 会員又は連 携会員	平成29年10 月4日～平 成30年3月 31日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
心理学・教育学 委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	心理学・教育学 委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	心理学・教育学委員会・ 基礎生物学委員会・統 合生物学委員会合同行 動生物学分科会	統合生物学委員会に記 載	統合生物学 委員会に記載	統合生物学 委員会に記載		(親委員会の追加)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	地域研究委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境 学委員会・地球惑星科 学委員会合同地球環境 変化の人的側面(H D)分科会	(略)	(略)	(略)		地域研究委員会・環境学 委員会・地球惑星科学委 員会合同地球環境変化 の人的側面(HD)分科 会	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環 境学委員会・地球惑 星科学委員会合同地 球環境変化の人的側 面(HD)分科会KL aSiCa小委員会	1. KLaSiCa研究の推 進と広報 2. KLaSiCaの国際的 連繫(含Future Earthとの 連繫)と国内関連学会と の連携 3. KLaSiCa国際事務 局等(@IIAS・ドイツ)と の具体的な共同作業 4. その他KLaSiCaの活 動への協力、支援、助 言、わが国からの参加の 促進 に係る審議に関すること	15名以内の 会員又は連 携会員若しく は会員又は 連携会員以 外の者	平成30年4 月26日～平 成32年9月 30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

政治学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	政治学委員会比較政治分科会	(略)	(略)	(略)
	政治学委員会比較政治分科会社会的投資政策研究小委員会	1. 各国実態調査により経済成長やデモクラシーの質への社会的投資政策の影響を分析 2. 日本への示唆の検討に係る審議に関すること	7名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	平成30年4月26日～平成32年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
基礎生物学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載
	(略)	(略)	(略)	(略)
統合生物学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会	1. 国民の科学リテラシー向上と行動生物学 2. 行動生物学における新技術 3. 学際的交流と行動生物学に係る審議に関すること	18名以内の会員又は連携会員	平成29年11月24日～平成32年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
基礎医学委員会	基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会	形態・細胞生物医科学の発展に向けた審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	平成30年4月26日～平成32年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
環境学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)

政治学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	政治学委員会比較政治分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
基礎生物学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載
	(略)	(略)	(略)	(略)
統合生物学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会	1. 国民の科学リテラシー向上と行動生物学 2. 行動生物学における新技術 3. 学際的交流と行動生物学に係る審議に関すること	18名以内の会員又は連携会員	平成29年11月24日～平成32年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
基礎医学委員会	基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会	形態・細胞生物医科学の発展に向けた審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	平成29年10月4日～平成30年3月31日
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
環境学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)

	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会KL aSiCa小委員会	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
物理学委員会	物理学委員会物理教育研究分科会	1. 大学基礎教育レベルを中心とした物理教育研究活動の調査・検討 2. 物理教育改革の方向性に関する検討に係る審議に関すること	10名以内の会員又は連携会員	平成30年4月26日～平成32年9月30日
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会KL aSiCa小委員会	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載	地域研究委員会に記載
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
物理学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
地球惑星科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人間の側面(HD)分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

【24期にて初設置2件】

政治学委員会比較政治分科会小委員会の設置について

分科会等名：社会的投資政策研究小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	政治学委員会
2	委員の構成	7名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	先進諸国における低成長が続く中、人的資源としての女性や子供の役割に焦点を当て、かつてのケインズ主義を超えて新たに登場してきた、社会的投資国家が遂行している諸政策が注目されている。社会的投資戦略とは、現在の諸問題に対応しつつ将来的帰結をさらに重視し、従来の受動的な所得移転を特色とするケインズ型福祉国家から、教育投資や女性労働市場などのインクルーシブで長期的な人的資本形成政策を軸とした雇用可能性最大化による高生産性経済へのシフトを意味している。しかし、各国は様々な経路をたどっており、政策の内容も国ごとに大きく異なる。本小委員会では、社会的投資政策の多様な実態を調査し、その可能性と課題を検討する。
4	審議事項	1. 各国実態調査により経済成長やデモクラシーの質への社会的投資政策の影響を分析 2. 日本への示唆の検討 に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年4月26日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

物理学委員会分科会の設置について

分科会等名：物理教育研究分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	物理学委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>物理教育をめぐる近年の環境の変化と、認知科学などの教育に関わる関連諸科学の発展を背景に、物理学という学問分野の固有性に基礎をおきエビデンスを重視する研究分野としての「物理教育研究」とこれに基づく教育改革が国際的に進展している。また前期には物理学・天文学分野における教育課程編成上の参照基準も取り纏められた。</p> <p>物理教育においては、現場での教育改革と研究分野としての「物理教育研究」推進とを車の両輪としつつ、現代社会の要請に応える人材育成を目指した改革が求められている。そのためには、物理学の魅力を十分に発揮し伝えられる教育としていくことも肝要である。</p> <p>この分科会では、わが国における「物理教育研究」の展開とその成果の教育現場、特に大学基礎教育レベルでの適用の現状についての情報を収集し課題を整理する。ここでは、ジェンダーに注目した項目も含め情報収集・課題整理を行う。その上で、上記の目的の推進のため、大学基礎教育レベルにおける物理教育改革の方向性に関する検討と「物理教育研究」推進に関する検討を行い、シンポジウム等による情報の発信と、学・官・市民に向けた提言をまとめることを目指す。</p>
4	審議事項	<p>1. 大学基礎教育レベルを中心とした物理教育研究活動の調査・検討</p> <p>2. 物理教育改革の方向性に関する検討に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	平成30年4月26日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

哲学委員会分科会の設置について

分科会等名：いのちと心を考える分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	哲学委員会
2	委員の構成	<u>20名以内の会員又は連携会員</u>
3	設置目的	現代世界では、死の問題や何らかの超越的・垂直的次元に向き合う機会が失われていく一方で、生命科学・遺伝子操作技術が次々と新たな成果をもたらし、経済と情報のグローバル化が大きな社会変容を引き起こしているが、そのような変化のなかで、「いのち」と「心」はこれまでになく捉えがたいものになっている。いのちの意義とは何か、心の豊かさとは何かということをも明らかにしていくことは、哲学系の人文諸学の重要な課題である。現代の状況のなかでさまざまな角度から、いのちと心をつまみ直すことが、この分科会設置の目的である。
4	審議事項	1. 生命倫理や葬送儀礼や看取りにおけるいのちの意義 2. 社会生活の多様な場面での心のあり方に係る審議に関すること
5	設置期間	平成29年10月4日～平成32年9月30日
6	備考	※委員の構成の変更

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
地球環境変化の人的側面（HD）分科会小委員会の設置について

分科会等名：K L a S i C a 小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○地域研究委員会 環境学委員会 地球惑星科学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	知識・学習・社会変革アライアンス Knowledge, Learning and Societal Change Project (K L a S i C a) は、国際科学会議 (I C S U) の「地球環境変化の人的側面国際研究計画」において2011年10月から開始された10年間の国際共同研究であり、旧IHD Pのアライアンスでもある。知識・学習と個人の行動変化を通じた社会変革との相互関係について深く理解することが、持続可能な社会構築のために不可欠であるという認識に立ち、さまざまな国際共同研究の可能性を探って行く。地域と国際社会を結びつける必要性はますます高くなっている。本小委員会は、国際的および国内的にK L a S i C a 研究を推進振興し、SDG s の目標・ターゲットに沿って、人類社会に貢献することを目的とする。
4	審議事項	1. K L a S i C a 研究の推進と広報 2. K L a S i C a の国際的連繋 (含 Future Earth との連携) と国内関連学会との連携 3. K L a S i C a 国際事務局等 (@ I I A S ・ドイツ) との具体的な共同作業 4. その他K L a S i C a の活動への協力、支援、助言、わが国からの参加の促進 に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年4月26日～平成32年9月30日
6	備考	※事実上23期からの継続

心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同分科会の
設置について

分科会等名：行動生物学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	<u>心理学・教育学委員会</u> 基礎生物学委員会 ○統合生物学委員会
2	委員の構成	18名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	行動生物学とその関連分野に関して、今後発展すべき分野、発展の障害、などを特定し、必要な科学行政の施策について審議しするとともに、分野の成果を社会に発信する。
4	審議事項	1. 国民の科学リテラシー向上と行動生物学 2. 行動生物学における新技術 3. 学際的交流と行動生物学 に係る審議に関すること
5	設置期間	平成29年11月24日～平成32年9月30日
6	備考	※親委員会の追加

基礎医学委員会分科会の設置について

分科会等名：形態・細胞生物医科学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	基礎医学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	近年の生命医科学の進歩のなかで、形態学を基盤にし、生化学、分子生物学、分子遺伝学、生物物理学などを学際的に取り入れた細胞生物医科学の発展は、まさに基礎医学の基盤として益々重要になりつつある。本分科会は、この学問領域に属する研究者が、連携し学術の発展に大きく寄与することを目的とする。
4	審議事項	形態、細胞生物医科学の発展に向けた審議に関すること
5	設置期間	平成30年4月26日～平成32年9月30日 (改正前=平成29年10月4日～平成30年3月31日)
6	備考	※設置期間の延長(事実上23期からの継続) 平成29年11月4日に開催したシンポジウムを踏まえ、24期において調査審議並びに情報発信を継続する必要があるため。

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規1件）

（臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会）

氏名	所属・職名	備考
岩崎 晋也	法政大学現代福祉学部教授	第一部会員
小松 浩子	慶應義塾大学看護医療学部教授	第二部会員
寶金 清博	北海道大学病院長	第二部会員
井上 智子	国立研究開発法人国立看護大学校長	連携会員
川口 孝泰	東京情報大学看護学部教授	連携会員
西村 ユミ	首都大学東京健康福祉学部教授	連携会員
正木 治恵	千葉大学大学院看護学研究科教授	連携会員

○委員の決定（追加11件）

（哲学委員会いのちと心を考える分科会）

氏名	所属・職名	備考
石井 哲也	北海道大学安全衛生本部（ライフサイエンス系研究安全担当）教授	連携会員
松原 洋子	立命館大学大学院先端総合学術研究科教授	連携会員

（心理学・教育学委員会教育学分野の参照基準検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
油布 佐和子	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	連携会員

（地域研究委員会地域学分科会）

氏名	所属・職名	備考
小長谷 有紀	国立民族学博物館教授	連携会員

（法学委員会社会と教育における LGBTI の権利保障分科会）

氏名	所属・職名	備考
星乃 治彦	福岡大学人文学部教授・副学長	連携会員

（農学委員会）

氏名	所属・職名	備考
宮崎 毅	東京大学名誉教授	連携会員

（臨床医学委員会老化分科会）

氏名	所属・職名	備考
秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座老年病学分野教授	連携会員
飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構教授	連携会員

（臨床医学委員会臨床研究分科会）

氏名	所属・職名	備考
楠岡 英雄	独立行政法人国立病院機構理事長	連携会員

(基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会)

氏名	所属・職名	備考
田高 悦子	横浜市立大学大学院医学研究科教授	連携会員

(健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会)

氏名	所属・職名	備考
田高 悦子	横浜市立大学大学院医学研究科教授	連携会員

(土木工学・建築学委員会)

氏名	所属・職名	備考
木下 勇	千葉大学大学院園芸学研究科教授	連携会員
塚原 健一	九州大学工学研究院教授	連携会員

(土木工学・建築学委員会企画分科会)

氏名	所属・職名	備考
木下 勇	千葉大学大学院園芸学研究科教授	連携会員
寶 馨	京都大学大学院総合生存学館学館長、京都大学防災研究所教授	連携会員
塚原 健一	九州大学工学研究院教授	連携会員
内藤 廣	建築家、東京大学名誉教授	連携会員
望月 常好	一般財団法人経済調査会理事長、公益社団法人日本河川協会参与	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規3件）

（地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同地球環境変化の人的側面（HD）分科会K L a S i C a小委員会）

氏名	所属・職名	備考
岡本 耕平	名古屋大学大学院環境学研究科長・教授	連携会員
櫻井 武司	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員
氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授	連携会員
桃木 至朗	大阪大学大学院文学研究科教授	連携会員

（経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会社会におけるサービス学の役割とその振興に関する小委員会）

氏名	所属・職名	備考
西尾チヅル	筑波大学ビジネスサイエンス系教授	第一部会員
新井 民夫	技術研究組合国際廃炉研究開発機構理事 長	連携会員
瓜生 原葉子	同志社大学商学部准教授	連携会員
新 誠一	電気通信大学大学院情報理工学研究科 教授	連携会員
仙石 正和	事業創造大学院大学学長・教授	連携会員
水流 聡子	東京大学大学院工学系研究科特任教授	連携会員
戸谷 圭子	明治大学大学院グローバル・ビジネス研 究科教授	連携会員
宮崎 久美子	東京工業大学環境社会理工学院教授	連携会員
村松 潤一	岡山理科大学経営学部教授	連携会員
山田 秀	慶應義塾大学理工学部管理工学科教授	連携会員
吉瀬 章子	筑波大学システム情報系教授	連携会員

（経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会サービス学の教育実装に
関する小委員会）

氏名	所属・職名	備考
西尾 チヅル	筑波大学ビジネスサイエンス系教授	第一部会員
大倉 典子	芝浦工業大学学長補佐・工学部教授	第三部会員

鈴木 久敏	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構監事	連携会員
柘植 綾夫	公益社団法人日本工学会元会長・顧問	連携会員
椿 広計	独立行政法人統計センター理事長	連携会員
平田 貞代	芝浦工業大学准教授	連携会員
山本 昭二	関西学院大学大学院経営戦略研究科教授	連携会員

【課題別委員会】

○委員の決定（追加1件）

（フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
竹中 千里	名古屋大学大学院生命農学研究 科教授	連携会員	副会長

平成 30 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	The 2018 Planetary Health Annual Meeting	5月29日 ～ 6月1日	4日	エジンバラ ----- イギリス	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所 特任フェロー)	第三区分
2	6th International Conference on Future-oriented Technology Analysis	6月4日 ～ 6月5日	2日	ブリュッセル ----- ベルギー	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所 特任フェロー)	第三区分
3	2nd Scoping Workshop of Knowledge-Action Network (KAN)	6月28日	1日	パリ ----- フランス	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所 特任フェロー)	第二区分

※平成 30 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（平成 30 年 2 月 22 日日本学術会議第 260 回幹事会決定）に基づく区分

【参考】

平成 30 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

〔平成 30 年 2 月 22 日
日本学術会議第 260 回幹事会決定〕

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、平成 30 年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、平成 30 年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第 1 区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）、及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、AC ならびに GC は一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第 2 区分

- ・フューチャー・アースの実施にあたり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるコア・プロジェクトに関する会議、タスクフォース、及び KAN (Knowledge-Action Networks) に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第 3 区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記にあたっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がり大きなものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のコア・プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

公開シンポジウム「認知症の診断・治療への心理学的貢献」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会

2. 共 催：日本心理学会

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 30 年 10 月 7 日（日）13：00～17：00

5. 場 所：京都女子大学 B 校舎 501 教室

6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：高齢化が急速に進むにつれて認知症の人も増加している。認知症の人を取り巻く社会的な課題としては、徘徊等による行方不明、消費の被害、車の運転による事故、介護負担、高齢者の虐待などがある。認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活し続けるために、公認心理師や心理学の専門家がどのようにこれらの課題に向き合っ
て、解決に貢献すべきなのかについて、今こそ議論しなければいけないのではないだろうか。ここでは、医学や心理学の専門家の方々に話題を提供していただき、認知症の診断・治療・予防という問題に心理学が果たすべき役割について考える。

8. 次 第：

13：00 シンポジウムの趣旨説明

松井 三枝（日本学術会議第一部会員、金沢大学国際基幹教育院教授）

13：10 認知症医療における神経心理学的視点と心理的サポートの重要性

池田 学（大阪大学医学部教授）

14：00 認知症医療に心理学が果たしてきた役割：過去、現在、未来を考える

八田 武志（関西福祉科学大学健康福祉学部教授）

14：50－15：10 （ 休憩 ）

15：10 認知症アセスメントにおける神経心理学的症候のとらえ方

小森 憲治郎（十全ユリノキ病院）

16：00 総合討論

（司会）

松井 三枝（日本学術会議第一部会員、金沢大学国際基幹教育院教授）

岩原 昭彦（京都女子大学発達教育学部教授）

(コメンテーター)

箱田 裕司 (日本学術会議連携会員、京都女子大学発達教育学部教授)

平井 啓 (大阪大学経営企画オフィス経営企画部門准教授)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「認知症患者の支援に対する心理学的貢献」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会

2. 共 催：日本心理学会

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 30 年 12 月 9 日（日）13：00～17：00

5. 場 所：日本大学文理学部新本館センターホール

6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：高齢化が急速に進むにつれて認知症の人も増加している。認知症の人を取り巻く社会的な課題としては、徘徊等による行方不明、消費の被害、車の運転による事故、介護負担、高齢者の虐待などがある。認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活し続けるために、公認心理師や心理学の専門家がどのようにこれらの課題に向き合っ
て、解決に貢献すべきなのかについて、今こそ議論しなければいけないのではないだろうか。ここでは、医学や心理学の専門家の方々に話題を提供していただき、認知症患者やその家族の支援という問題に心理学が果たすべき役割について考える。

8. 次 第：

13：00 シンポジウムの趣旨説明

松井 三枝（日本学術会議第一部会員、金沢大学国際基幹教育院教授）

13：10 認知症の人の意思決定サポート

成本 迅（京都府立医科大学医学部教授）

14：00 認知症ケアにおいて大切なこと～老年心理学からのアプローチ～

佐藤 眞一（大阪大学人間科学部教授）

14：50－15：10 （ 休憩 ）

15：10 語られないことから認知症の方々を理解する

緑川 晶（中央大学文学部教授）

16：00 総合討論

（司会）

松井 三枝（日本学術会議第一部会員、金沢大学国際基幹教育院教授）

岩原 昭彦（京都女子大学発達教育学部教授）

(コメンテーター)

箱田 裕司 (日本学術会議連携会員、京都女子大学発達教育学部教授)

平井 啓 (大阪大学経営企画オフィス経営企画部門准教授)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「心理学で冤罪を防ぐ：司法的判断における認知バイアスの影響」
の開催について

1. 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会法と心理学分科会、同社会のための心理学分科会
2. 共催：公益社団法人日本心理学会，法と心理学会
3. 日時・場所
 - (1) 平成 30 年 10 月 13 日（土） 13 時 30 分～17 時 00 分 京都女子大学（予定）
 - (2) 平成 30 年 11 月 10 日（土） 13 時 30 分～17 時 00 分 慶應義塾大学（予定）
4. 分科会等の開催：予定あり
5. 開催趣旨

確証バイアスや後知恵バイアスなど人間が思考するの「くせ」である認知バイアスは、司法的判断においては冤罪を引き起こす可能性がある。捜査や裁判の場で、捜査員、目撃者、裁判員などの人々がどのような認知バイアスにとらわれやすく、それがどのような結果をもたらすのかに関する心理学的研究を概観し、冤罪につながりかねない人間の認知特性を理解し、その克服方法を模索したい。
6. 次第

13:30 「趣旨説明」
伊東裕司（慶應義塾大学文学部教授）

13:40 「目撃者における認知バイアス」
巖島行雄（日本大学文理学部教授）

14:20 「捜査における認知バイアス」
桐生 正幸（東洋大学社会学部教授）

15:00 休憩

15:10 「裁判員における認知バイアス」
伊東裕司（慶應義塾大学・教授）

16:50 「法律研究者の視点から」
指宿信（成城大学法学部教授）

16:30 「総合討論」
箱田裕司（日本学術会議連携会員、京都女子大学発達教育学部教授）
仲真紀子（日本学術会議連携会員、立命館大学総合心理学部教授）

16:50 閉会の辞
伊東裕司（慶應義塾大学・教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「比較政治学」の教育：大学で何をいかに教えるか
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会、日本比較政治学会
2. 日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）13:30～15:30
3. 場 所：東北大学川内南キャンパス
4. 分科会等の開催：開催予定
5. 開催趣旨：大学における政治学教育のあり方は近年大きな注目を集めているが、個々の学協会では必ずしも正面から取り上げられていない。それゆえ比較政治学会において、「学部学生に対して比較政治学の重要性をいかに示し、何をエッセンスとして、どう教えるか」「各国政治を扱う授業において、比較政治学の考え方をどのように基礎づけて学生に教えるか」という問題を軸にして、大学における比較政治学教育の意義とあり方を考える。これは比較政治学という学問をどうとらえるのか、比較政治学の方法をどう伝えるのかという問題であると同時に、比較政治学という学問がもつ社会的な意義を、どのように学生につたえるのかというでもある。ここ数年、日本語による比較政治学の新しい教科書が刊行され、比較政治学教育の新たな潮流が生まれているため、本パネルではこうした教科書執筆者からの報告を軸にして、大学で比較政治学を教える意義や、何をどのように教えるのかに関して、フロアを含めて議論する。
6. 次 第：
 - 13:30 開催趣旨説明
磯崎 典世（日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授）
 - 13:35 「比較政治学の「考え方」をどう教えるか
－因果推論の事例としての比較政治研究」
久保 慶一（早稲田大学政治経済学術院教授）
 - 14:55 「地域に寄り添わないで地域政治を教える－事例としての相対化の追求」
待鳥 聡史（京都大学大学院法学研究科教授）
 - 14:15 「地域研究は教えられるのか
－各国政治・比較政治・国際政治との関係のなかで」
末近 浩太（立命館大学国際関係学部教授）
 - 14:35 討論
新川 敏光（日本学術会議連携会員、法政大学法学部教授）
加藤 淳子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）
小川 有美（日本学術会議連携会員、立教大学法学部教授）

6. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「平成 30 年度日本歯学系学会協議会講演会
『歯学・歯科医療の今後の方向性』」の開催について

1. 主催：日本学術会議歯学委員会
2. 共催：日本歯学系学会協議会
3. 日時：平成 30 年 6 月 27 日（水）14：30～16：00
4. 場所：日本歯科大学生命歯学部 100 周年記念館地下 1 階 九段ホール
（〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20）
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：我が国では超高齢社会に対応した保健・医療・福祉の在り方が各界で議論されている。過去 10 数年の間に歯学領域では医歯連携を中心とした多職種連携や国民のライフステージに対応した歯科医療が実践され、歯科的介入が国民の健康長寿に貢献する臨床データの蓄積が行われてきた。本講演会では、超高齢社会に対応した歯学・歯科医療の現状と今後の方向性についてお二人の識者に講演していただき、歯学領域としての展望をまとめた
7. 次第：
 - 1) 開会挨拶

丹沢 秀樹（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院医学研究院教授）
宮崎 隆（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会理事長、昭和大学歯学部長・歯科理工学教室教授）
 - 2) シンポジウム

座長：羽村 章（日本歯学系学会協議会副理事長、日本歯科大学生命歯学部
長・高齢者歯科学講座教授）

14：40～15：10 丹沢 秀樹（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院医学研究院教授）

15：10～15：40 櫻井 薫（東京歯科大学老年歯科補綴学講座教授）

15：40～15：55 質疑応答

3) 閉会挨拶

安井 利一（日本歯学系学会協議会副理事長、明海大学学長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「概日生理学の新しい地平」の開催について

1. 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同生物リズム分科会、アショフ・ホンマ記念財団
2. 共催：日本時間生物学会
3. 後援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日時：平成30年7月14日（土）14:30～16:35
5. 場所：北海道大学学术交流会館 小講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：バクテリアからヒトまで、地上のほぼすべての生物は、内因性の約24時間（サーカディアン）リズム発振機構である「生物時計」をもち、地球の自転に伴う明暗サイクルに同調して、様々な機能に24時間のリズムを駆動する。生物時計はまた、季節に伴う日長や環境温の変化に対応し、生命や種の保存に関わる重要な機能を発揮する。一方、ヒトにおいても不規則な睡眠覚醒リズムや睡眠不足が生活習慣病、うつ病などの誘因となっている。インターネットやゲーム、スマートフォンなどの普及に伴い、子供や若者では生活の夜型化が進み、また、長時間・不規則勤務や交替勤務が働く世代の心身の健康に影響を及ぼしている。からだのリズムを無視した社会生活が健康、成長、寿命などにどのような影響を及ぼしていくかは、今後の大きな課題でもある。生物時計研究の進展は目覚ましく、現在、生物時計のリズム発振メカニズムが様々な生物において分子レベルで明らかにされつつある。その基本的なメカニズムは動植物のみならず、原核生物に至るまで生物種を通じて驚くほど類似している。本シンポジウムでは、シアノバクテリアにおける24時間リズム発振の分子構造、哺乳類における分子時計メカニズムと細胞間リズム同期、ヒト睡眠覚醒リズムへの季節や社会の周期の影響、などについて、最先端の研究成果を講演していただく。今回の講演を通じ、生物と環境の関わりを見つめなおし、日々の生活や教育に活かしていただく機会としたい。
8. 次第：
座長 近藤孝男（日本学術会議第二部会員、名古屋大学院理学研究科名誉教授）
深田吉孝（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授）

- 14:30 シンポジウム導入「概日時計の今日的意義」
本間研一（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）
- 14:35-15:05 「生物時計の温度補償性の構造科学」
秋山修二（大学共同利用機関法人自然科学機構分子科学研究所教授）
- 15:05-15:35 「ほ乳類生物時計の振動体ネットワーク」
本間さと（日本学術会議連携会員、北海道大学脳科学研究教育センター客員教授）
- 15:35-16:05 「ほ乳類中枢時計におけるバズレッシン神経の役割」
三枝理博（金沢大学医薬保健学総合研究科教授）
- 16:05-16:35 「ビッグデータで読み解くヒトクロノタイプと社会的時差ボケ」
（仮題）
ティル レネベルグ
Till Roenneberg（ミュンヘン大学医学心理学研究所教授）
- 16:35 シンポジウム総括
近藤孝男（日本学術会議第二部会員、名古屋大学院理学研究科名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「Food regulation and consumer needs in the world」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 IUNS 分科会、日本栄養・食糧学会
2. 日 時：平成 30 年 5 月 11 日（金）：16 時 30 分～18 時
3. 場 所：岡山コンベンションセンター コンベンションホール
4. 分科会等の開催：予定なし
5. 開催趣旨：食の嗜好性は、各国の経済的、社会的、文化的な背景の影響を受けるが、消費者による食の選択においては、各国の規制も重要な要因となる。このシンポジウムでは、まず Marta Cesar 氏（IFIS、英国）から、世界の食の規制に関するデータベースについて紹介いただく。次に David N Cox 博士（CSIRO、オーストラリア）より、アジア各国における消費者の食品選択の特徴を紹介していただき、最後に竹林純博士（医薬基盤・健康・栄養研究所）には、わが国の食品の規制制度や表示制度について概観していただく。本シンポジウムにより、食品を選択する上での正しい知識を多くの一般市民が身につけることが期待できる。
6. 次 第：
 - 16:30～16:35 Opening remarks
加藤 久典（日本学術会議連携会員，東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）
 - 16:35～16:40 Introduction of IUNS Committee of the Science Council of Japan
清水 誠（日本学術会議連携会員，東京農業大学応用生物科学部教授）
 - 16:40～17:05 Development of database on food regulation in the world
Marta Cesar (Food Regulations and Compliance Manager, IFIS, UK)
 - 17:05～17:30 Determinants of Asian consumers' food choices
David N Cox (Group Leader, Sensory and behavioural Sciences, CSIRO, Australia)
 - 17:30～18:00 Food regulation and food labeling in Japan
竹林 純（国立研究開発法人医療基盤・健康・栄養研究所食品保健機能研究部食品分析研究室室長）
7. 関係部の承認の有無：第二部承認
(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「分子科学研究所所長招聘会議「化学の近未来：化学と AI・大学の質保証」」の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会
大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、
公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
 2. 共 催：無
 3. 後 援：無
 4. 日 時：平成 30 年 5 月 30 日（水）13：00～17：30
 5. 場 所：岡崎コンファレンスセンター
 6. 委員会の開催：開催予定
 7. 開催趣旨：本会議は、上記のとおり、日本学術会議化学委員会、分子化学研究所、および日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における種々の重要課題を取り上げて議論し、報告、提言をしてきた。日本学術会議第 24 期は、重要テーマの一つとして「化学と AI」を取り上げる。また、前期より取り組んできた大学の質保証に関わる提言「化学分野の参照基準」が同検討分科会でまとめられた。AI(人工知能)は瞬く間に社会のあらゆる場面で存在感を増し、学術のどの分野においても注目されている。一方、大学における教育では、この点も考慮しながら多様な場面に対応できるグローバルな人材の育成が必要とされている。本会議では、これら二つの観点に基づいて、化学の近未来について議論する。
 8. 次 第：
 - 13：00 挨拶
川合 眞紀（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構分子科学研究所所長）
 - 13：05 報告
加藤 昌子（日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院理学研究院教授）
- * 第一部 「化学と AI」
- 13：20 趣旨説明 「情報科学との融合による新化学創成小委員会」について
阿尻 雅文（日本学術会議第三部会員、東北大学材料科学高等研究所教授）
 - 13：30 講演「AI 技術全般・入門と化学産業への応用（仮）」
山下 善之（東京農工大学教授）
 - 13：50 講演「機械学習による反応成績予測（仮）」
佐藤 一彦（産業技術総合研究所触媒化学融合研究センター長）

- 14：10 講演「企業における AI 導入 IoT とスマート化（仮）」
江崎 宣雄（三井化学生産技術高度化推進室企画グループリーダー）
- 14：30 総合討論 1
（司会）阿尻 雅文（日本学術会議第三部会員、東北大学材料科学高等研究所教授）

15：00－15：20 （ 休憩 ）

* 第二部 「化学分野の参照基準」

- 15：20 講演「化学分野の参照基準の概要」
西原 寛（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
- 15：40 講演「化学教育における高大接続（仮）」
後藤 颯一（東洋大学教授）
- 16：00 講演「大学教養課程の化学（仮）」
村田 滋（東京大学大学院総合文化研究科教授）
- 16：20 講演「大学における化学専門教育（仮）」
久新 莊一郎（群馬大学大学院理工学府教授）
- 16：40 講演「企業が求める化学人材（仮）」
浅見 正弘（富士フイルム株式会社フェロー）
- 17：00 総合討論 2
（司会）川合 眞紀（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構分子科学研究所所長）
- 17：30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム「AI と IoT が拓く未来の暮らし：情報化社会の光と影」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部、東北地区会議、国立大学法人東北大学
2. 後 援：一般社団法人情報処理学会(予定)、一般社団法人電子情報通信学会（予定）、国立研究開発法人情報通信研究機構（予定）、大学共同利用機構法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（予定）
3. 協 賛：未定
4. 日 時：平成 30 年 8 月 2 日（木）13：00～17：30
5. 場 所：東北大学 青葉山キャンパス カタールサイエンスホール
6. 分科会等の開催：第三部会を開催予定（午前中）

7. 開催趣旨：

政府科学技術政策である Society 5.0 で実現を目指す社会では、AI（人工知能）と IoT（Internet of Things）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されると宣言されている。情報化社会の光に関心が集中する一方、AI や IoT による働き方への影響やセキュリティなどの影も指摘する声もある。本シンポジウムでは、AI と IoT に代表される情報技術による社会の変革の見通しを論じ、未来社会構築における学術の貢献について議論する。

8. 次 第：(予定)

13：00 開会挨拶

大野 英男（日本学術会議第三部会員・第三部部長、東北大学総長）

13：10 東北地区会議代表幹事挨拶

厨川 常元（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院医工学研究科教授・研究科長）

13：20 「深層機械学習とその意味するもの」

丸山 宏（Preferred Networks 社 最高戦略責任者）

- 14：10 「AI から量子コンピュータまで 先進技術による価値創造」
久世 和資（日本アイ・ビー・エム株式会社最高技術責任者）
- 15：00－15：20 （ 休憩 ）
- 15：20 「AI/IoT 時代の学校教育のあり方」
堀田 龍也（東北大学情報科学研究科教授）
- 15：50 「東北メディカル・メガバンク計画の目標と進捗状況－世界最先端のバイオバンクの構築を目指して」
山本 雅之（日本学術会議連携会員、東北大学メディカル・メガバンク機構機構長）
- 16：20 総合討論
司会 徳山 豪（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院情報科学研究科長・教授）
討論者 丸山宏、久世和資、堀田龍也、山本雅之
土井美和子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構監事、奈良先端科学技術大学院大学理事）
- 17：20 閉会挨拶
徳田 英幸（日本学術会議第三部会員・第三部副部長、情報通信研究機構理事長）
- 17：25 閉会
9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、提案部等会員）

日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会
「南九州におけるウイルス感染症とその制御に向けた挑戦」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催： 鹿児島大学
3. 後 援： 鹿児島県、鹿児島市、公益財団法人日本学術協力財団（以上予定）
4. 日 時： 平成 30 年 9 月 10 日（月）14:00～16:15
5. 場 所： 鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール（予定）
（鹿児島市郡元 1 丁目 2 1 番 2 4 号）
6. 開催趣旨： 鹿児島を中心とする南九州地域は成人 T 細胞白血病・リンパ腫（ATL）の原因ウイルスである HTLV-1 の高度蔓延地域であり、毎年多くの患者が発生し、その治療成績は満足できるものではない。また、HTLV-1 は HAM とよばれる中枢神経疾患の原因にもなっている。一方、南九州はわが国でも有数の畜産地域であり、鳥インフルエンザや人獣共通感染症の制御が地域の重要な課題である。さらに、最近ではダニ咬傷による致死的なウイルス感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が報告され、南九州は患者数が最も多い。そこで本講演会では、地域住民の安心と健康に対する脅威となっているこれらのウイルス感染症とその制御を目指す取り組みについて、それぞれの研究者が研究の最新動向などについて解説する。
7. 次 第：

司会進行 秋葉 澄伯（九州・沖縄地区会議会員、鹿児島大学名誉教授）

 - (1)開会挨拶（14:00～14:10）
 - 14:00～14:05 武内 和彦（日本学術会議副会長）
 - 14:05～14:10 前田 芳實（鹿児島大学学長）
 - (2)講演（14:10～16:05）
 - ①「人類は成人 T 細胞白血病・リンパ腫を克服できるか？」
石塚 賢治（鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター 教授）
 - ②「HTLV-1 で起こる神経難病：HAM」
久保田 龍二（鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター 教授）

③「鳥インフルエンザの制御を目指して」

小澤 真（鹿児島大学共同獣医学部 准教授）

④「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とその治療薬に関する研究」

馬場 昌範（鹿児島大学副学長・難治ウイルス病態制御研究センター 教授）

(3) 閉会挨拶

16:05～16:15 君塚 信夫（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表
幹事、九州大学大学院工学研究院 教授）

（下線の登壇者は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム「第3回若手科学者サミット」の開催について

1. 主催：日本学術会議若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会
2. 共催：なし
3. 後援：なし
4. 日時：平成30年6月4日（月）13：30～18：00
5. 場所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

昨年度に若手科学者ネットワーク分科会の呼びかけで開催したポスターセッション「若手科学者サミット」を内容的に拡充し、若手科学者同士での交流と情報共有を提供するために開催する。今年度は3部構成として、研究発表、若手の会の活動の紹介、パネルディスカッションの開催を予定している。

第1部の研究発表として、若手科学者ネットワークに登録している若手の会の推薦により、優れた研究成果を挙げている若手科学者数名による講演を行う。若手科学者同士のネットワークがより強固なものに発展するとともに、とりわけ、異なる研究分野の手法やアプローチの融合による新たな研究領域の創造へとつながることが期待される。

第2部では、若手科学者ネットワークに登録している若手の会の活動を紹介するポスターセッションを開催する。若手科学者の分野を超えた交流と、若手の活動のアイデアの交換を促進する。この部分については、若手アカデミー委員会の頃から継続的に開催してきており、毎年参加者より好評を得ている。

第3部では、「よい研究」とは何かを様々な立場から議論するパネルディスカッションを行う。このパネルディスカッションでは、文科省・財務省等の省庁や企業視点、アカデミア視点でのそれぞれの考える「よい研究」について共有し、フロアを交えてパネルディスカッションを行う。

8. 次第（予定）：

13：30 開会の辞

酒折 文武（日本学術会議特任連携会員、中央大学理工学部数学科准教授）

第1部

- 13：40 若手研究者による研究報告①（学会若手賞受賞者より選出）（調整中）
- 14：00 若手研究者による研究報告②（同上）
- 14：20 若手研究者による研究報告③（同上）
- 14：40 （休憩）

第2部

15:00 ポスターセッション：若手の会の活動報告

司会：前川 知樹（日本学術会議連携会員、新潟大学医歯学総合研究科高度口腔機能教育研究センター研究准教授）

ポスターセッションでの発表者：10団体程度の参加（調整中）

16:00 （休憩）

第3部

16:15 パネルディスカッション「よい研究とは」

司会：高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

パネリスト：文科省・財務省等の官庁より課長補佐級の中堅職員1、2名（調整中）

産業界あるいは若手科学者2～3名（調整中）

17:30 質疑応答

18:00 閉会

（下線の講演者は、主催分科会委員）